

毎週日曜発行
2024 7/14

こども新聞
週刊

かがほピョンプラス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうのテーマ

塩釜みなと祭を知ろう

ニュース



こども記者が取材



出番を待つ御座船「鳳凰丸」(右奥)について説明する福田さん(左端)とこども記者＝塩釜市内

宮城県塩釜市で15日に開かれる「塩釜みなと祭」

は、日本三大船祭りの一つと言われています。14日は前夜祭の花火大会があり、2日にわたり港町が熱気に包まれるんだ。夏祭りシーズンの到来を前に、みなと祭の歴史と、地元でお客をもてなすフランス料理店「シエヌー」を、塩釜二小のこども記

みんな思い出

みんな動こう

戦後と震災復興の象徴

者4人が取材したよ。

(8面に関連記事)

今回取材に当たったこども記者は、いずれも5年の阿部珠季さん(11)、小松明日美さん(10)、高橋ゆりさん(10)、千葉理絢さん(10)。



みなと祭は毎年海の日にあり、市内の塩釜神社と志波彦神社の神様が入るみこしを2隻の御座船に載せ、松島湾を巡る海上渡御が有名です。第2次世界大戦後の塩釜に活気を取り戻そうと1948年に始まり、昨年は2日間で計約15万人が訪れました。東日本大震災の年も規模を縮小して実施するなど、多くの市民にとって祭りは「戦後、震災復興のシンボル」とされています。

こども記者は「塩釜にとってなぜ大切な祭りなのかですか」と、運営する祭協賛会のメンバーに質問しました。

福田杏耶さん(23)は「塩釜は水産・漁業の町

ですが、少子高齢化が進み元気がなくなりつつあります。だからこそ、市民が心を一つにして本気で祭りを作り上げ、塩釜を盛り上げたい」と力を込めました。



海上渡御には、漁船約80隻が加わります。「震災前に参加していた船は被災しなかったという話があります。神様のお祭りと感じる逸話です」。

安藤さんが教えてくれました。

御座船「鳳凰丸」と「龍鳳丸」は、できて60年がたち、新しく作り替える計画が進んでいます。

安藤さんは「2027年の80回を新しい船で迎えたい。市外や県外の人にも、みこしを載せて海に出るとい唯一無二の祭りをPRして知名度を上げ、費用を工面したいです」と語りました。

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇19日(金) 利府に子ども仕事体験施設
子ども向け仕事体験施設「カンドゥー」が、宮城県利府町のイオンモール新利府にオープンします。約20の職業を体験でき、稼いだ疑似通貨「カッチン」で買い物や貯金、ワークショップなどを楽しめます。

ページの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 こども記者 フランス料理店を取材